

オンラインフリーペーパー
#おいでよ上田
2020.7月号

#上田の
夏と
わたし

オンラインフリーペーパー
#おいでよ上田
2020.7月号



令和2年7月 おいでよ上田

寄稿をしてくださったのは7名の方。いずれも素敵な作品を用意してくださいました！
記念すべき第1号オンラインフリーペーパー「#おいでよ上田」楽しんでいただけたら幸いです。

初めてのことであったので不安もありました。ですが実際に始めてみると、これまで交流がなかった方も寄稿に手を上げてくださって、本当にやってよかったと感じています。

令和に入ってから2年目の夏、世の中は様々な困難に見舞われて、否が応でも時代の転換に迫られているような気持ちになります。
おいでよ上田も「地元を軸にした交流のきっかけを作りたい」という思いで、これまで実際に人が集まっていたイベントやワークショップをしてきました。ですが、新型コロナウイルスの影響で全てのイベントを中止。
だけど「何もしない」というのは気に入らない。何とかしてこれまでやってきたことと似たようなことができるか……？と考えたとき、フリーペーパーを発行することに思いをつきました。

令和に入ってから2年目の夏、世の中は様々な困難に見舞われて、否が応でも時代の転換に迫られているような気持ち

オンラインフリーペーパー「#おいでよ上田」発行にあたって



上田の夏の風物詩！
上田わんぱくの
あの歌詞スラングも収録！
LINEスタンプで
「おいでよ上田」で検索してね。



おいでよ上田×ジキラジキ
うえまるちゃん LINEスタンプ

宣伝

寄稿いただいた方は五十音順・敬称略

- おいでよ美ヶ原・前田3号
- カバサト
- Sairiyama
- 渚葉
- 平沢しんたろう
- ましやまろー
- もまりのやまぢかん
- おいでよ上田
- 発行にあたって

CONTENTS::

「#上田の夏とわたし」

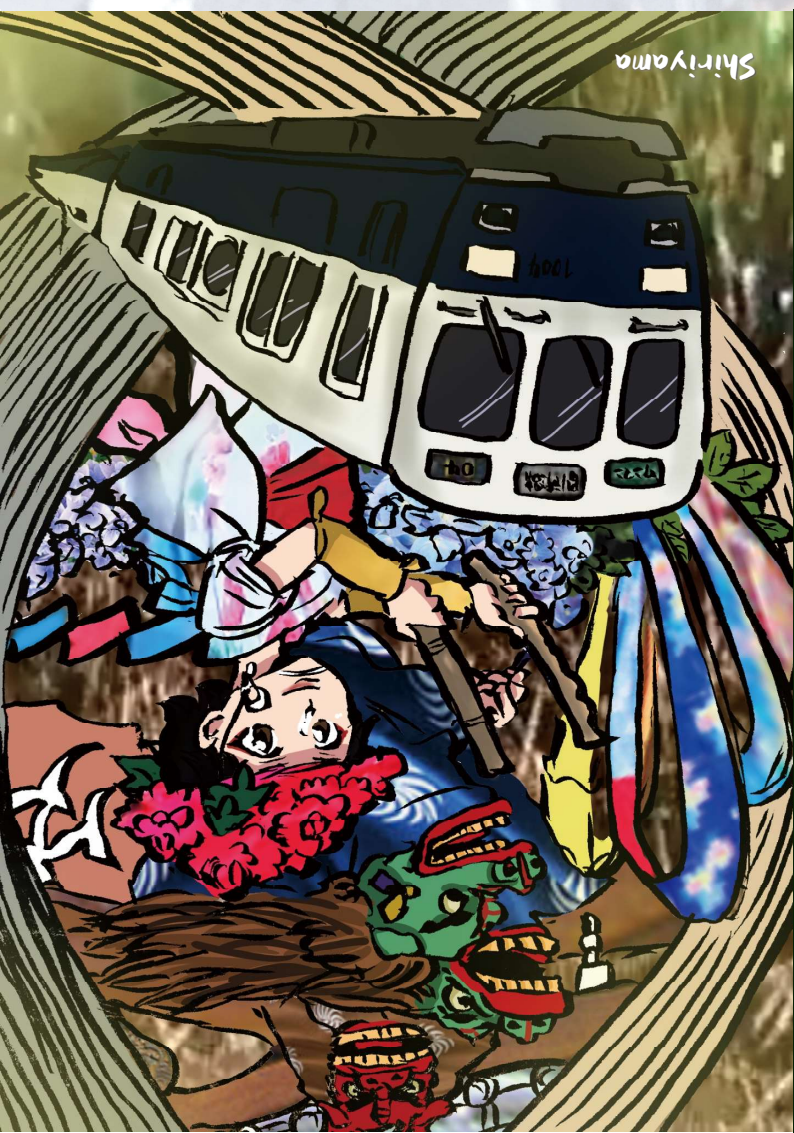
#おいでよ上田
オンラインフリーペーパー

大音響の中、一万人近い踊り手が一斉に掛け声を上げると、暑さが頭から突き抜ける様な爽快感がある。身動きが出来ないほどの通り沿い、縁石に空席を見つけ、溶けていくかき氷も忘れて夢中になって連の踊りを見ていた。上田わっしよいの夜は、毎年、祖父母の家にいとこ達と泊まった。熱気の余韻冷めやらぬ私たちは、「山がアゝあるから」と歌ったり踊ったり、布団の上でわっしよいごっこを眠たくなるまで騒いでいた。

私の原風景の一つと言える上田の夏を、今は子供たちと過ごしている。
我が子は、かき氷に夢中だけれど、大人になったときにどんな上田の夏を思い出すのだろうか。

2020年 #おいでよ上田 フリーペーパーの発刊に寄せて

ましゅまろー



なんが異面目っぽいホエムを書いてるけども、中身はだの小3男子。
おいては美ヶ原・3号はついたらんどの住民です。(ω)っ

夏が好きだ

ここでの大阪、両河内できち、仕事で上京してMADCHY松子(千葉県)に5年ほど暮らしたのち、川原のなみちの場所へ。快速★夏生活を送り出した。い、美ヶ原の麓に広がる長野県上田市旧武石(たけし)村に嫁がり込んだ4回目の夏がやってきた。

4月下旬から10月下旬まで冷房、ない！降温がなければ生き残れないサトウキビもおっちゃん。天然サウナの大風呂や千葉の亜麻生生活から一転、エレクトロニクス風機すら不要。元より部屋にエアコンがなし。近所の武石川に足をはひんやり快速空間。

暑か夏たった日本全国酷暑の2018年です。近所、避暑の申し子(抱か)さんだから。エレクトロ、避暑の申し子(抱か)。

美ヶ原にくるまで、夏は苦手だった。

ほとんどの旅行で朝が始まり、意味のないエレクトロを何度か浴び、かっちゃんはの冷房で夏風邪を引いて、会社では冷房病に悩ましながらも汗対策でベビーマサージを毎日おこなう。満員電車で揺れるのもうとろとろした汗肌になんたりした。

あつという間に温まるビーンズは一気飲みするしかなかった。

今年、夏が大嫌いだっけ。

4年目に入った美ヶ原生活。

半ば押し付けられる形での始めの畑作業に精を尽しつつ、今年は扇風機を止さなくともいいやと。思いながらエアコンのない夏をまた、迎える。

今年は(も)キョウマツリヤでくるる肉を焼いて汗をかくようになって東栗原谷に飛び込んだり。なんたわよ！分らない悪い水さ怖い虫に追いつかれて冷や汗を流り書きながら。野山を駆け抜けたい予定だ。

大好きな美ヶ原の夏がやってる。

おいでよ美ヶ原・前田3号



「おれたちの花火だ！」

耳を劈く轟音

目が眩むほどの光

私は心の中で叫ぶ

その場にいた者も皆

心の中で叫んでいたことだろう

ある年の、ある街の花火大会のこと

もぎりのやぎちゃん



信州の民俗と私、 上田の夏は別所から始まる。

近年、別所を取り巻く環境は大きく変化した。台風19号の襲来により千曲川に架かる赤い鉄橋が崩落したことに加え、新型コロナウイルスの影響で観光業は大きな打撃を受けた。



私は毎年、7月になると別所温泉で執り行われる「岳の幟」と言う民俗行事の取材に行くのだが、今年は役員を限定し、神事のみを執り行うこととなった。永正元年より500年続く祭礼も今は辛抱の時である。



去年を振り返ると降り頻る小雨から撮影機材を守る事に必死であった事を思い出す(笑)
濡れた森の匂い。しっとりとした温泉街を練り歩く幟行列はとても神秘的であった。来年は今年に分まで盛り上がろう！(文・写:カツサト)

